

循環器チーム

(循環器内科・心臓外科・血管外科)

当院には、10名の循環器内科医師、2名の心臓外科医師、1名の血管外科医師が常勤しております。

第30号、第31号のこのコーナーで、循環器内科が手掛けるカテーテル治療を紹介しました。今回、まずは、カテーテル治療の新しい治療機器についてご紹介します。名前はクロッサーといえます。カテーテルの先端チップに20000回/秒の振動と20μmのストロークを生み出し、機械的振動による物理的衝撃及び高速振動によるマイクロバブルが分子レベルで破碎していきます。その性質を利用して、非弾性物(カルシウム・動脈硬化)を貫通させます。一方、弾性物(皮膚・血管壁)は貫通しにくいことになっています。当院では2015年に導入し、下肢閉塞性動脈硬化症の患者さんの治療に役立てております。



図1



図4



図2

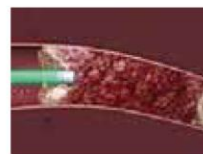


図3

つぎに、血管外科とのハイブリッド治療について紹介します。ある患者さんが足の壊疽で来院されました。造影しますと、左腸骨動脈及び大腿動脈が閉塞していました。(図5、6)



図5



図6

この状況下での単独のカテーテル治療は困難を極めます。そこで、まず、血管外科医が左の大腿部を麻酔下で皮膚切開し、動脈を露出します。つぎに、動脈を切開し、詰まっている血栓成分を取り除きます。ついで、カテーテルを用いて、腸骨動脈にス TENT を留置します。さらにカテーテルを用いて、大腿動脈をバルーンで拡張します。結果、左下肢動脈開通に成功しました。血流が増加したうえで、足の壊疽の処置を続けていきます。(図7、8)



図7



図8

心臓外科も循環器にとって大切な診療科です。第30号でお示した冠

動脈カテーテル治療はすべての患者さんに可能というわけではなく、冠動脈バイパス術が必要な場合もあります。また、心臓弁膜症、大動脈解離・瘤の治療においても外科医の力が必要です。循環器内科医が行うカテーテル治療の一つであるロータブレーター(ドリル治療)は心臓外科医常勤が必須となっています。(図9)

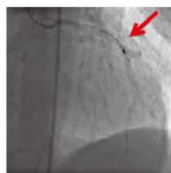


図9

当院循環器チームは24時間体制で、急性心臓・血管疾患に対応します。また、毎週チームカンファランスを開催しています。患者さんにとって最適な治療法を提供していきますのでよろしくお願いいたします。